

播磨の昆虫 カマキリ分布資料

相坂 耕作

はじめに

カマキリは昆虫のなかでも破格の知名度をもっている。その特異な形態は、昔から人々に強い印象を与えてきた。その証拠に弥生時代の銅鐸にまでカマキリの図柄が登場してくる。

魔性の昆虫のように思われ、ヘビ同様、細長くて柔らかそうな体の持ち主ゆえか、生理的に嫌いな人が多い。生きて動いている餌しか手を出さない昆虫界のハンター、殺し屋カマキリは純肉食性である。

中国では古く、このどうもうな攻撃性から、雌同士を竹の箒に入れ、戦わせる競技があったという。また「韓詩外伝」には、斉の荘公が獵に出た際、一匹のカマキリが両臂（りょうひ）を上げて、馬車の輪をつかまえようとしているのをみて「小虫の勇志また侮（あなど）るべからず」といって、馬車を迂回させた話が載っているという。

ちまたでは「カマキリ夫人」と呼ばれ、悪評の代名詞に使われるカマキリも、生態や分布等あまり詳しくは知られていない。今回、筆者はあまり知られていない播磨のカマキリを研究用に採集した標本で分布を調べてみた。播磨の昆虫を知ろうえの一助になれば幸いである。

播磨のカマキリの分布について

播磨地方には次の7種類のカマキリが分布している。ちなみに

- ① ヒメカマキリ *Acromantis japonica*
- ② ヒナカマキリ *Amantis nawai*
- ③ オオカマキリ *Tenodera aridifolia*
- ④ チョウセンカマキリ *Tenodera angusipennis*
- ⑤ ウスバカマキリ *Mantis religiosa*
- ⑥ コカマキリ *Statilia maculata*
- ⑦ ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera*

日本に分布するほとんどが知られている。日本にはほかに南西諸島にオキナワオオカマキリ、スジイリコカマキリ、ヤサガタコカマキリが分布している。

① ヒメカマキリ *Aeromantis japonica* (ヒメカマキリ科)

体長30mm内外。緑色と褐色の2型がある。本州(山形県以西)、四国、九州、南西諸島などに分布する。林内に生息し、林縁から遠く離れることはない。一般に夏から秋に出現する。南西諸島では5~7、9~11月に確認されている。ただ一例播磨地方付近で5月初旬に成虫をピーティングにて得たことある。樹上性で♂はよく飛ぶ。卵塊は樹幹、樹皮、土から裸出した根などに産みつけるという。

《採集例》

ヒメカマキリ	1♂	兵庫県揖保郡新宮町宮内	3-X-1989
	1♀	” 多可郡黒田庄	28-VI-1992
	1♂	佐用郡佐用町奥海	13-IX-1992



ヒメカマキリ 揖保郡新宮町新宮産

② ヒナカマキリ *Amantis nawai*〔カマキリ科〕

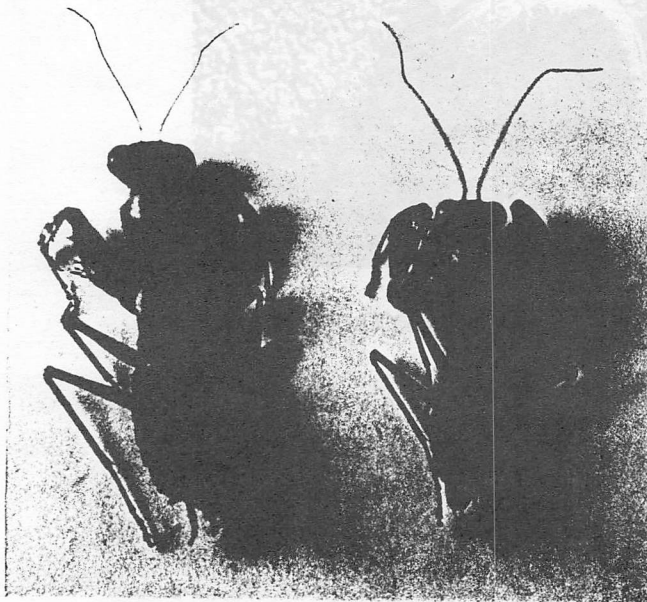
体長15mm内外。緑色型はみつかっておらず、褐色型のみ知られている。本州、四国、九州などに分布する。単為生殖(註1)をされると考えられていたが、1978年奈良県で♂が発見され、その後三重県でもみつかった。成虫は夏から秋にかけ出現する。主に常緑広葉樹林にすみ、地上を徘徊し、行動は活発である。

播磨地方では筆者が赤穂市において交尾中の本種を発見した。翅は退化して雌雄とも爪状。

(註1)単為生殖……一般に、昆虫類は♂♀がおり、交尾してから子孫を増やす。これを「両性生殖」という。ところが昆虫類のなかには♂がおらず♀だけで卵を産み、子孫を残すことがある。これを「単為生殖」または「処女生殖」とよぶ。なかには両性生殖が普通なのに、状況によって単為生殖を行なう昆虫類もある。ナナフシ類がよく知られている。

《採集例》

ヒナカマキリ	1♂1♀	赤穂市坂越	28-X-1990
	卵塊	"	28-X-1990
	卵塊(卵産卵)	"	7-XI-1991
	卵塊	飾磨郡家島町宮	22-II-1991



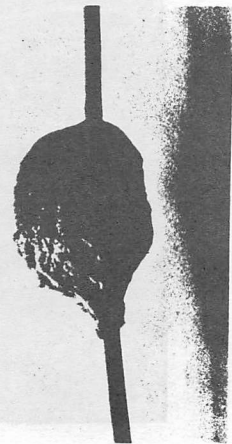
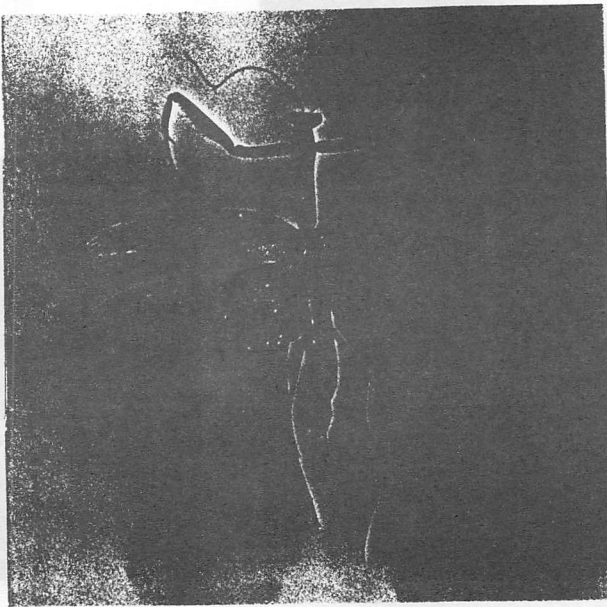
ヒナカマキリ 赤穂市坂越産 右♂♀

③ オオカマキリ *Tenodera aridifolia* (カマキリ科)

体長85mm内外。緑色と褐色の2型がある。日本産カマキリの中の最大種。林の周辺やススキ、ネザサなどイネ科植物の生える草地に多く生息する。また卵塊はそれらの茎に産む。主に生きている昆虫類を捕食する。人が近付くと前後翅を背の上に立て威嚇姿勢をとることが多い。分布はマレーシアやインドなど東洋熱帯を中心に分布している。播磨地方においても、次種と共に最も普通にみられる種類の一つである。後翅が紫褐色でちらばり、次種と区別できる。

《採集例》

オオカマキリ	1♂	赤穂市御崎丸山海岸	3-X-1982
	1♀	姫路市広畑区才	25-IX-1985
	1♂	宍粟郡波賀町音水溪谷	23-IX-1986
	1♀	姫路市飾磨区入船	24-IX-1986
	1♀	加西市青野ヶ原	28-IX-1986
	1♀	揖保郡揖保川町馬場	11-X-1990
	1♀	姫路市書写山	3-XI-1990
	1♀	姫路市本町	5-XI-1990
	1♂	加西市青野ヶ原	17-XI-1990



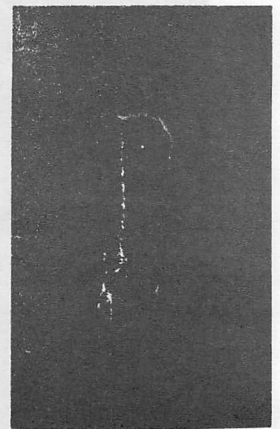
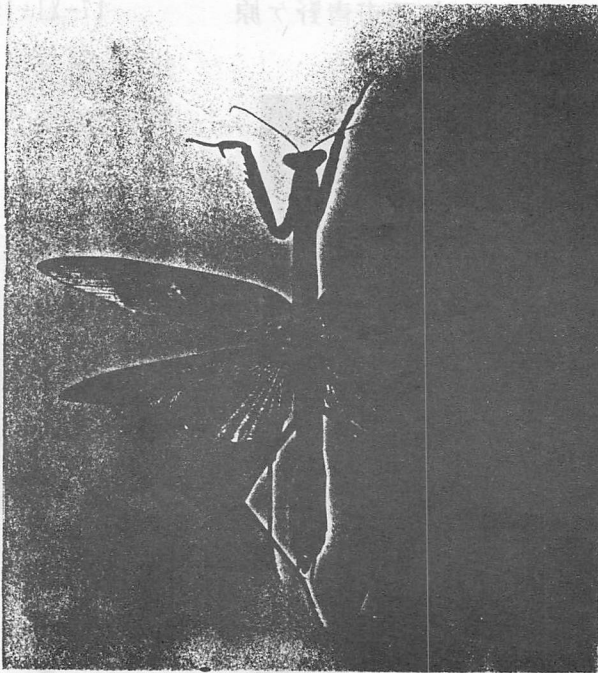
オオカマキリ 姫路市飾磨区産 卵塊

④ チョウセンカマキリ *Tenodera angustipennis* (カマキリ科)

体長85mm内外。緑色と褐色の2型がある。和名のおこりは、南方系のオオカマキリに対して本種の分布が朝鮮、華北など北によっていることにもとづく。前種との違いは後翅の前縁部と中央部に並ぶ濃褐色短条が特徴となってる。日本全土（岩手県以西）に分布し、播磨各地に最も普通なカマキリの1種である。成虫は夏から秋にかけて出現し、主に生きた昆虫類を捕食している。草地や畑地、河川敷の草原、工場の埋め立て地などに生息し、都市部でもけっこうみられる。

《採集例》

チョウセンカマキリ	1 ♀	姫路市飾磨区入船	19-X-1981
	1 ♂ 1 ♀	姫路市広畑区才	29-VI-1985
	1 ♂	姫路市大津区天満	20-X-1985
	1 ♂	加西市青野ヶ原	28-IX-1986
	1 ♂	加西市青野ヶ原	17-XI-1990



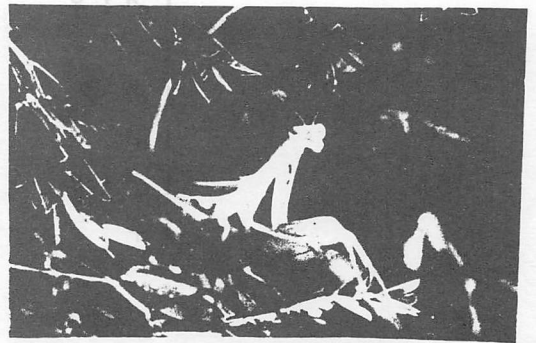
チョウセンカマキリ 加西市青野ヶ原 卵塊

⑤ ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (カマキリ科)

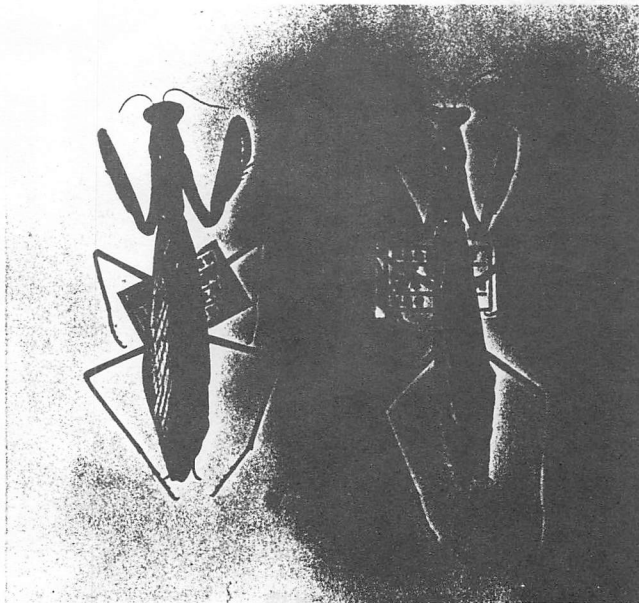
体長60mm内外。緑色と褐色の2型がある。しかし、どちらも乳白色味をおびた色になる。和名のおこりは、薄い翅にちなみ前翅、後翅とも半透明である。世界中に広く分布しており、日本では北海道(南部)から、本州、四国、九州などに分布している。しかし播磨地方では珍しく、あまり分布していないようである。草地や河川敷の草原など開けた環境にすむが、時には人工的な環境も好むという。播磨地方では、あまり人の入らない草地にてみつかった。

《採集例》

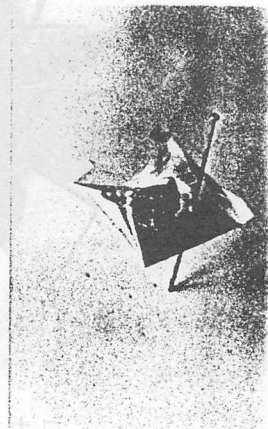
ウスバカマキリ 2♂3♀(2♀褐色型) 加西市青野ヶ原 15-IX-1986



獲物をまつウスバカマキリ
加西市青野ヶ原



ウスバカマキリ 加西市青野ヶ原



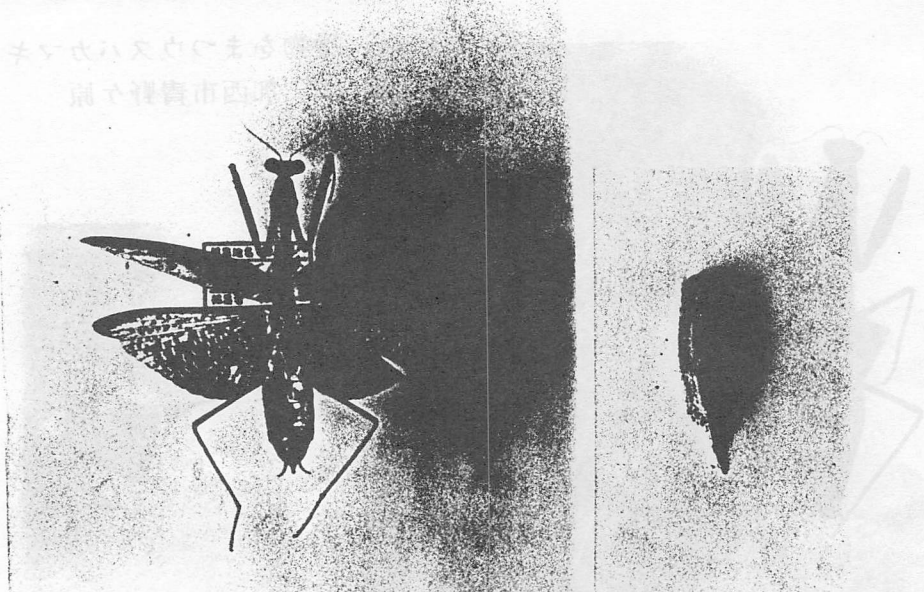
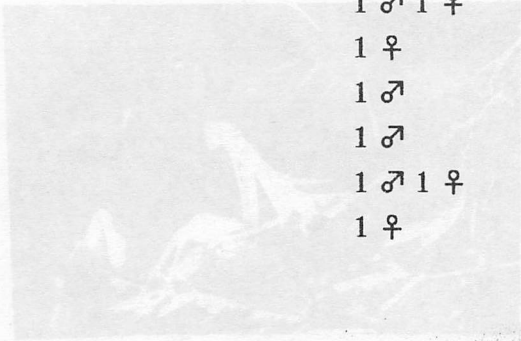
卵塊

⑥ コカマキリ *Statilia maculata* (カマキリ科)

体長50mm内外。緑色と褐色の2型がある。褐色型には薄い黄土色から暗褐色まで、いろいろな色パターンがあり、個体差が大きい。後翅は体色と同じ褐色で網目状の模様が美しい。緑色型の個体は少なく、播磨地方でもみつかっていない。本州(山形県、宮城県以西)、四国、九州などに分布する。成虫は夏~秋にかけて出現する。播磨地方では最も普通のカマキリで林内、河川敷の草原、畑地、墓地、住宅地など広くみられ、地上を徘徊していることが多い。

《採集例》

コカマキリ	1 ♂	姫路市入船町	2-X-1985
	1 ♂ 1 ♀	姫路市林田町八幡神社	10-XI-1985
	1 ♀	小野市青野ヶ原	15-IX-1986
	1 ♂	竜野市竜野町竜野公園	11-X-1986
	1 ♂	揖保郡揖保川町馬場	11-X-1990
	1 ♂ 1 ♀	揖保郡御津町室津	21-X-1990
	1 ♀	加西市青野ヶ原	17-XI-1990



コカマキリ 竜野市産

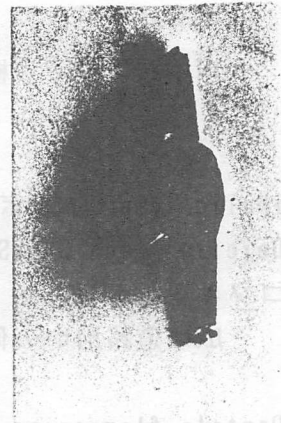
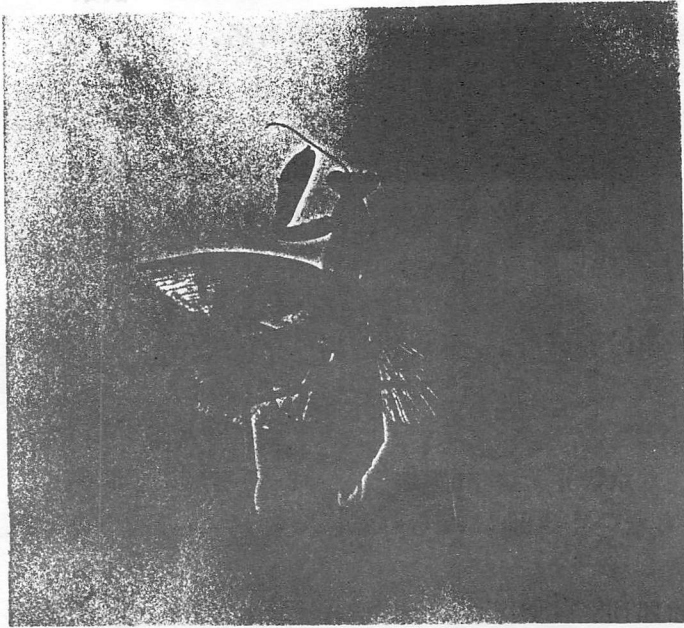
卵塊

⑦ ハラビロカマキリ *Hierodula petellifera* (カマキリ科)

体長60mm内外。緑色と褐色の2型がある。しかし播磨地方ではほとんど緑色型である。和名のおこりは、体がずんぐりして、全体に幅広い特徴からだろう。東洋熱帯を中心に分布し、本州、四国、九州などに分布している。播磨地方では、奥地の山地よりも海岸に近いような南部に多くみられるようである。8～11月にかけて出現。林や田にも入り低木に多い。卵のうは、だ円球形、木の幹や枝に産みつけられる。

《採集例》

ハラビロカマキリ	1 ♀	竜野市揖西町竹万	17-X-1987
	1 ♂	竜野市竜野町竜野公園	15-XI-1987
	1 ♂ (褐色型)	姫路市飾磨区入船町	2-X-1988
	1 ♀	揖保郡揖保川町馬場	24-IX-1990
	1 ♀	揖保郡御津町室津	14-X-1990
	1 ♀	赤穂市坂越	11-XI-1990



ハラビロカマキリ 赤穂市坂越産

卵塊